

多摩川緊急治水対策プロジェクトに位置づけられた大丸用水堰の改築は、河道断面を確保する対策として行います。
これにより、令和元年東日本台風と同等規模の洪水が起こった場合でも洪水を安全に流下させることが可能となります。

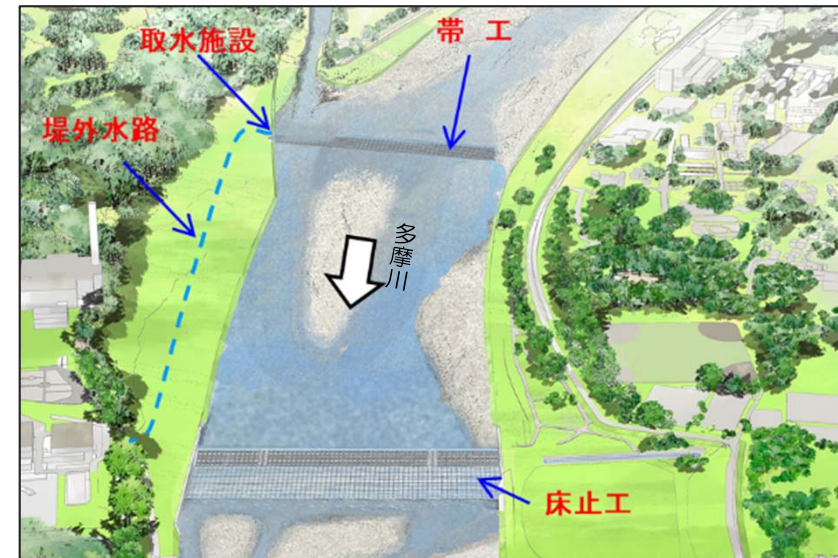


【改築の主な内容】

大丸用水堰の改築は、現在の堰を撤去した後、床止め工の設置と河道断面の切り下げを行います。
また、改築した後も取水できるよう、取水施設と堤外水路を設置します。



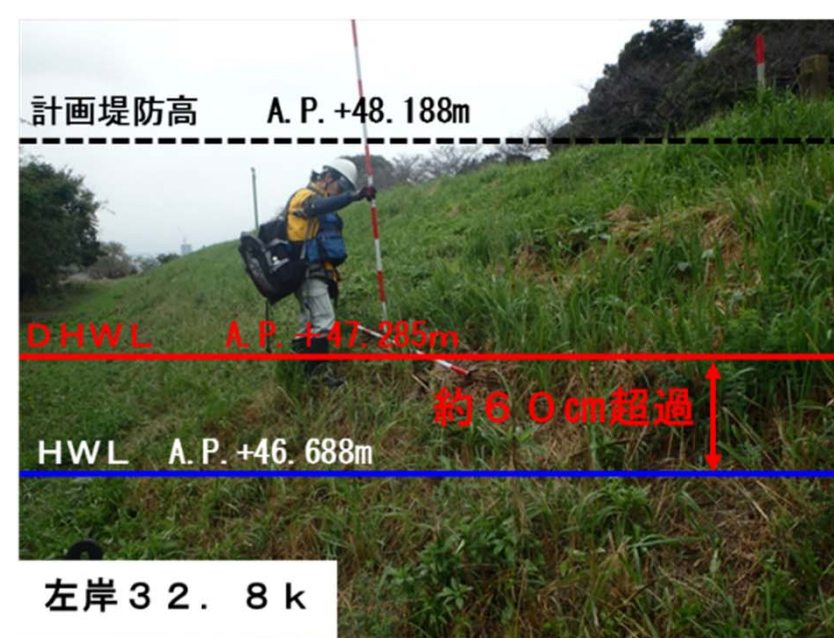
現在の大丸用水堰



大丸用水堰改築のイメージ

大丸用水堰改築の必要性について

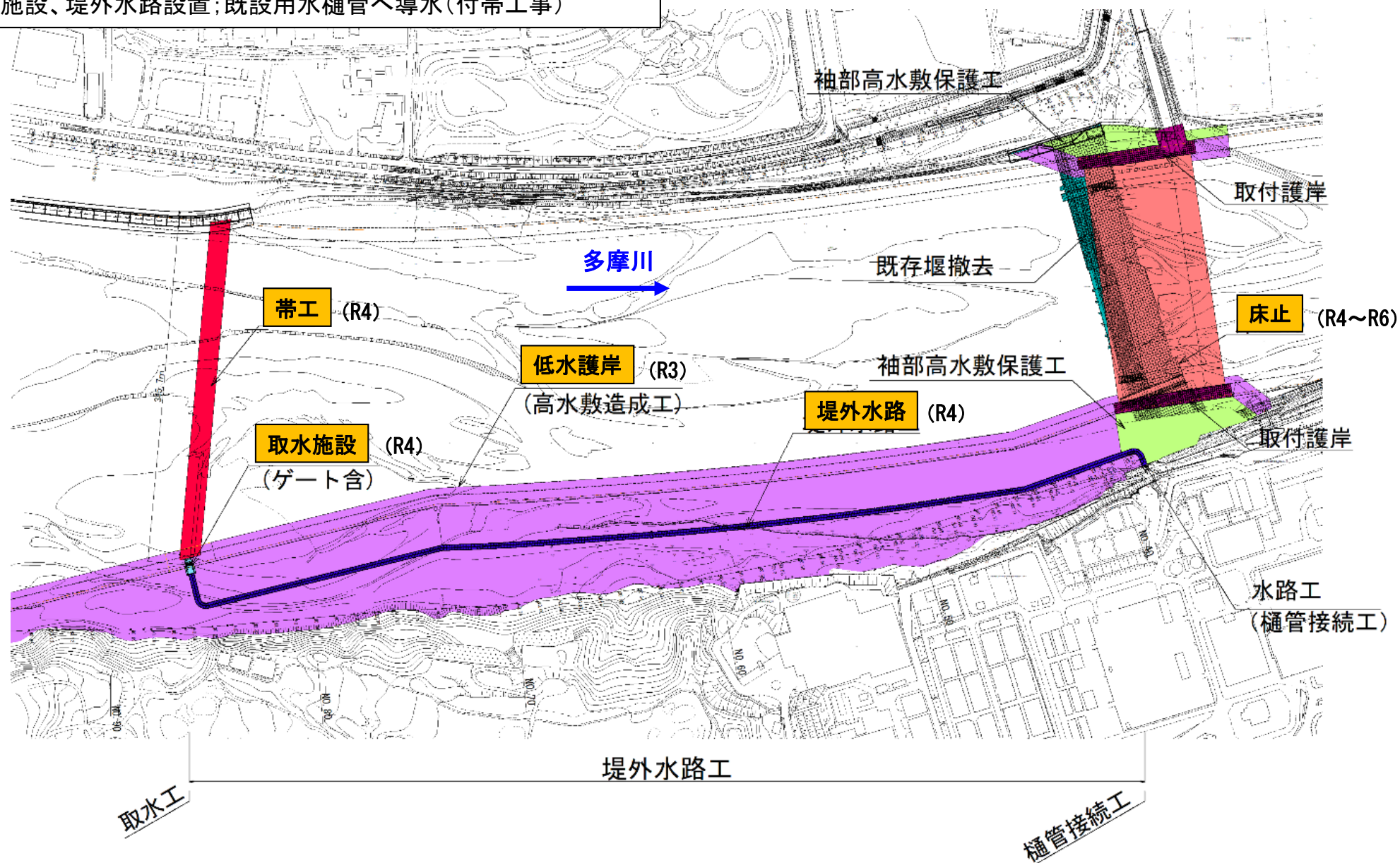
◆令和元年東日本台風において、大丸用水堰付近で計画高水位（HWL）を
右岸側（稲城市）で約1.35m超過、左岸側（府中市）で約0.6m超過。



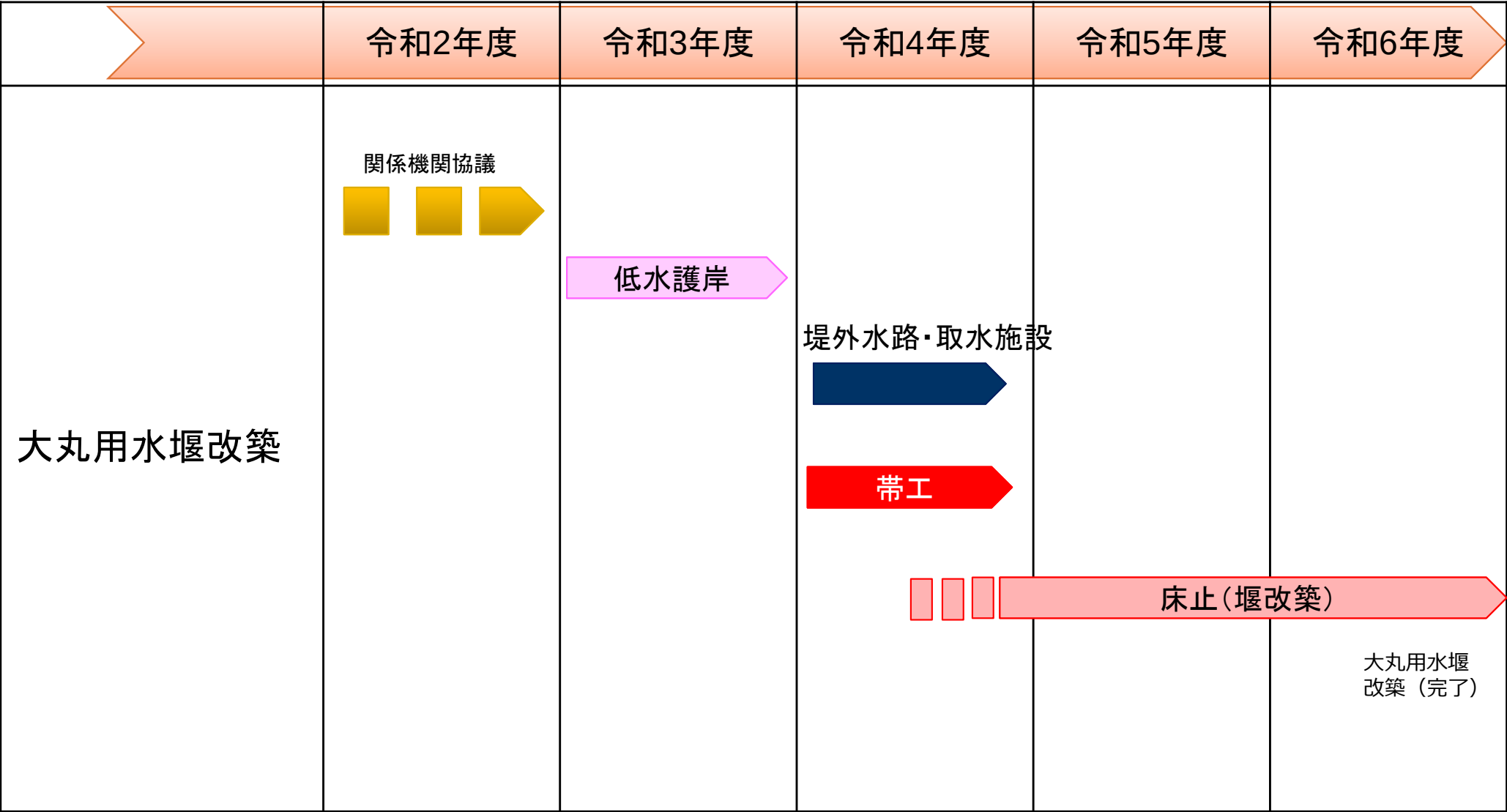
大丸用水堰の対策について

対策メニュー

- 既設用水堰の撤去、床止の設置
- 帯工の設置；河床低下防止（河川管理施設）
- 取水施設、堤外水路設置；既設用水樋管へ導水（付帯工事）



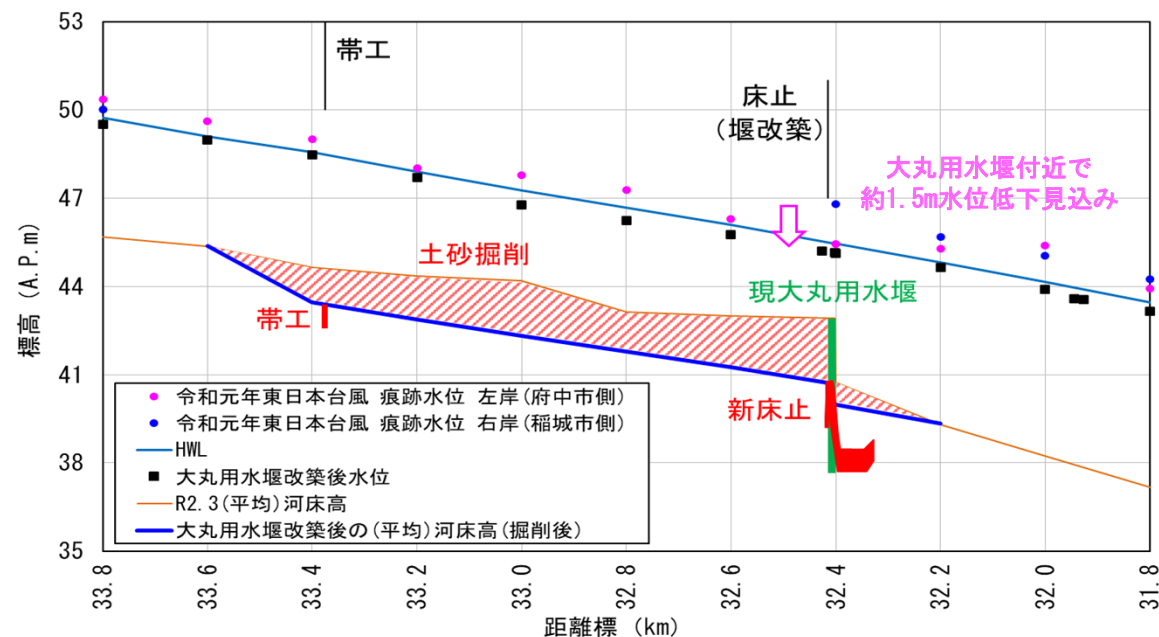
※ () の施工時期については、R3.4時点のものであり、今後、変更となる場合があります。



※ロードマップは、R3.4時点のものであり、今後、変更となる場合があります。

大丸用水堰改築、土砂掘削による水位低下効果

- 現在の大丸用水堰を撤去し、床止め、帯工を設置し、大丸用水堰上流に堆積した土砂の掘削を行います。
- 大丸用水堰の改築と土砂の掘削により、令和元年東日本台風と同規模の洪水に対して、堰付近で約1.5メートルの水位低下を見込んでいます。



※土砂掘削の深さ及び範囲については、現地状況を踏まえ、決定します。